

8月7日と9月1日の2回にわたり、SPA(Student-Parent Association)からみなさんへ、暑い夏を健康に乗り切ってもらいたいという思いから、ポカリスエットが配布されました。しかし、ただ頂いて飲むだけでなく、ポカリスエットを製造している食品業界大手である大塚ホールディングス株式会社のSDGsの取り組みについて学習してみましよう。

1. SDGsとは

SDGsは、2015年9月の国連サミットで150を超える加盟国首脳に参加のもと、全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」のことです。

SDGsは、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として、17のゴールとその課題ごとに設定された169のターゲット(達成基準)から構成されます。

それらは、貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーに至る広範な課題を網羅しており、豊かさを追求しながら地球環境を守り、そして「誰一人取り残さない」ことを強調し、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成することが目標とされています。



2. なぜ食品産業がSDGsに取り組むのか？

消費者、従業員、株主、取引先、自治体などのステークホルダーから「選ばれる企業」となるためには、目指すべき未来であるSDGsへの取組が判断材料のひとつとなります。

特に近年は、環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)に配慮している企業を重視・選別して投資を行う「ESG投資」が急成長しています。投資における企業の価値を測る材料としては、これまで主に企業の業績や経営状況などの「財務情報」が使われてきましたが、それに加えて二酸化炭素排出量抑制の取組や、社員のワークライフ・バランスなどの「非財務情報」も用いられるようになります。

また、グローバル企業を中心に、環境負荷の低さや、人権・労働環境などの社会問題への配慮を取引先の選定や購入の基準とする「持続可能な調達」が広がりつつあります。

3. 大塚ホールディングスの取り組み

①「熱中症対策」に対する取り組み

熱中症という言葉がまだ浸透していない1990年代からいろいろな機関と協働し、スポーツ活動の場や学校、工場、高齢者施設など、熱中症が起こりやすい現場に出向き、熱中症防止の重要性や熱中症予防の方法を伝える出張講座を全国で開催しています。



②「資源共生」に対する取り組み

循環型社会の実現を目指し、資源利用効率の改善、廃棄物の発生抑制、3Rへの取り組みを進め、最終処分量をゼロに近づけるゼロエミッション(自社基準:再資源化率99%以上)に取り組んでおり、2018年度は国内14社での再資源化率は99%となり、国内グループとしてゼロエミッションを達成、廃棄物総排出量についても約7,400トン削減(前年比16%減)しています。今後は海外のグループ会社も含めた事業全体の資源効率を高めていく活動を通じて、全社で生物資源を含む資源との持続可能な共生関係を構築していきます。

